

菩提樹

34

2003/7/15

津島市神明町2

元神宮寺宝寿院

0567・25・4154

梅雨の合間のある日曜日 午前六時頃

場所は正ちゃん池 沢山の釣り人の間を縫って走ってきます。

「とっちゃん。つたよ。二つも。見てみて。」小学1年生ぐらいの可愛い女の子。顔中くしゃくしゃにして、とっちゃんと思しき人物が、現れました。

どう見てもじいちゃんとか見えません。きつと兄ちゃんが二人くらいいるんでしょ。やっと生まれた女の子。目の中に入れても痛くなさそうです。

早起きして歩き始めて一ヶ月、四十分ほど早足で歩いて 2キロ減量できました。

毎朝とても楽しみです。先日面白い事に気付きました。何十人の人々が池の周りを歩いたり 走ったりしているのですが、何故か 皆同じ方向左周りで歩いていきます。人間は磁力を持ち合わせているそうです。小さな発見とダイエット 一石二鳥ですね。

施餓鬼会

いまより二千年以上も前のお話です。

お釈迦様のお弟子の目連様が亡くなったお母さんの今を知りたくて 瞑想して居ました。極楽を見ても見当たりません。地獄を見ると、餓鬼となつてやせ衰えた母が、食事をしたくても目前で火となつたり、水も喉をとおらぬほど細くなつています。

目連様は悲しくなりました。あんなに自分を慈しみ育ててくれた母が どうして苦しむのだろう。

目連さまは 悩んだ末に お釈迦様にお尋ねしました。「お釈迦様 どうしたら母を救う事が出来るのでしょうか」

「お前の母は 自分の子供の事ばかり思うあまり 他の子供を傷つけたり お前が欲しがれば たった一つの物でも盗ってきてお前に与えていた。その為に地獄に落ちてしまったのだ。今からでも遅くない。

修行の開けた僧侶を沢山集めて、施餓鬼の法を勤めなさい」と教えて下さいました。

私達は 知らない内に 他人を傷付けたり 私利私欲に走っています。

お施餓鬼を勤める時 戦争の犠牲となつてなくなった人々の為にも、また 憎みあつた人々の為にも 祈りましょう。

間もなく八月十五日の終戦記念日です。物にあふれた中に暮らしながらも、心寒い毎日を過ごしていますが、日本の豊かな自然に生かされている事に 感謝します。

八月二日・十時

上尾 遍照院 施餓鬼会

蟹江宥宏

